

平成 29 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 対象漁業集落の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：石垣市

島名：石垣島

協定対象漁業集落名：石垣市漁業集落

交付金額合計：30,464千円

(1) 基本交付金：30,464千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：298世帯、363人

(うち漁業世帯224世帯、279人)

2. 協定締結の経緯

石垣市周辺海域において、乱獲や漁場環境の悪化等により魚介類の減少や魚価の低迷が続いている現状にあって漁業者の高齢化及び減少等の課題を抱えているため、種苗放流、漁場の管理・改善等漁場の生産力の向上に関する取組と高付加価値化、新たな漁具・漁法の導入等の漁業の再生に関する実践的な取組を実施することにより、地域漁業の活性化を図り、漁業所得を向上させ、漁業世帯数及び漁業就業者数の維持と集落の漁業生産活動によって発揮される多面的機能の確保を目指して離島交付金による漁業再生活動に取組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

シラヒゲウニは乱獲等により非常に減少している状況のため、青年部が中心となってシラヒゲウニの種苗放流に向けた取組を実施し、資源の回復と漁獲量の増大を図ることとした。

曳き縄漁業の操業安定化を図るため、共同でパヤオを製作・設置し、保守管理を実施して漁獲量の安定供給を図ることとした。

サメによる漁獲物の横取りや漁具被害等があるため、一本釣り、電灯潜り及びかご網漁業者がサメ駆除を実施して生産性の向上及び安全操業の確保を図ることとした。

資源が乱獲等により減少し、産卵時期に一斉に水揚げされるクチナジ等魚類の漁獲規制

を行うため、石垣島周辺海域に5箇所の禁漁区域を設け、資源の回復と漁獲量の増大を図るため、資源管理の取組を行うこととした。

ヤイトハタ養殖漁業者が稚魚養殖網をフグに食い破られ逃げられる被害があるので、共同でフグの駆除を実施して生産性の向上を図ることとした。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

高付加価値化は、海ぶどう養殖漁業者が共同で養殖タンク3基を増設及び水中ポンプ1台を導入し、更なる品質向上及び生産能力向上を図ることとした。

新たな漁具・漁法の導入等は、集魚灯漁業者が中心となり、マグロ漁業の漁具・漁法改良及びヤケ防止に関する知見を得て、集魚灯漁業の安定的な経営に資するため、調査視察を実施することとした。

本地域において、新たな漁業として行うキンメダイ類漁業の可能性を模索するため、漁具を作製し、漁場開拓等新規漁業の着業の取組を実施することとした。

品質の良い養殖モズクの生産体制を構築するため県内産地の先進地視察を実施して養殖技術の向上を図ることとした。

流通体制の改善は、マグロ船主会が中心となり、取引先本土市場出荷時における八重山産マグロの鮮度の評価を把握するため調査視察を実施し、流通体制の改善を図ることとした。

本地域においては高齢化が進んでいるので、小中学生等に体験漁業を実施して漁業に興味を持たせ、新たな担い手育成を図ることとした。また、同時に実際に水揚げされた漁獲物等を調理し、食させることで魚食普及を図ることとした。

地元で水揚げされた魚介類の地産地消を推進するため、お魚祭りを実施して集落の取組への理解と魚介類の消費拡大を図ることとした。

4. 取組の成果

シラヒゲウニ種苗放流の取組は、今年度から試験養殖を開始した新たな取組であり、研究機関より提供された稚ウニ約200個を稚ウニ育成用のゲージ15個作成して陸上タンクで中間育成を行ったが、今年度においては、サイズの小さいことなどから、次年度以降において放流等を考えているので、次年度以降の成果に期待したい。

パヤオの製作・設置は8回延べ132人で補修・点検や新設のパヤオの製作・設置等の取組を行い（新規設置1基7回、補修・点検2基1回）、マグロ類の付き具合も良いと聞いているので、漁獲量の安定供給が図られたと考える。

サメ駆除は一本釣り漁業が1回、かご網漁業が1回、電灯潜り漁業が1回の計3回実施して合計137匹、8,805kgの駆除を行った。このことにより、漁場の生産性の向上及び安全操業の確保が図られた。

資源管理は、全魚種を対象に禁漁期間及び禁漁区域を設け、資源管理区域用ブイの製作、補修、回収を実施することにより、産卵時期の乱獲等を防ぐ事ができ、産卵により資源の回復に寄与できた。

フグ駆除は、ヤイトハタ養殖漁業者が共同で漁場である海面養殖場で実施しフグ類 18 匹の駆除を行った。このことにより、養殖網の食いちぎり防止に資することができて、ヤイトハタ養殖の生産性の向上が図られたと考える

高付加価値化は、海ぶどうの養殖タンク増設による生産能力向上及び水中ポンプを導入した一次ろ過機能強化による品質向上など今後の海ぶどうの生産能力向上等に資することができたと考える。

新たな漁具・漁法の導入は、集魚灯による旗流し方式で水揚げされたマグロのヤケ対策として広島県に先進地視察に行き、炭酸 (CO2) を溶け込ました海水を用いた麻醉によるマグロの沈静化等の技術をご教授頂き、大変参考になった。今後ご教授頂いた技術等を取り入れることで、マグロの価格向上が期待できる。

モズク養殖技術の向上は、主に苗床漁場環境及び生産方法の違い等を視察することを目的に県内産地の視察研修を実施した。視察さきでは、実際に漁場に潜り、苗床、本張り等を見学させて頂き、養殖手法の違い等も意見交換することもでき、大変有意義であった。今回の研修で学び得た情報を会員で共有し、更なるモズク養殖技術の向上に取り組んでいきたい。

流通体制改善は、マグロ船主会の 5 人が出荷先である京都、大阪、神戸の中央卸売市場に実際にマグロを送って、市場で魚体温度の状態を調査するため、視察を行った。各市場では八重山産の生マグロの評価は高いものでしたが、今回視察を行った時期が冬場であったため、輸送した箱の氷は溶けてなく、魚体温度の上昇は無かった。ただ、夏場は氷の溶ける場合あるので、氷の量を増やして欲しい等市場関係者からは丁寧な説明から問題点等を教授頂き、今後の流通改善に資することができたと考える。

体験漁業は、4 箇所以小中学生等 237 人を対象に午前中にハーリー体験、午後からは実際に水産物を調理し食する魚食普及体験という形で実施した。また、女性部が中心となって市民及び高校生 (計 2 回、参加者計 50 人) を対象に料理教室を開催し、魚のさばき方や魚料理を指導し、魚料理を体験させたところ、参加者からは次からは是非魚 1 匹まるごと購入し自分でさばいて料理したいとの声もあり、好評であった。また、青年部が地元中学生 42 人を対象に定置網漁業体験を実施した。体験漁業を通じ、実際に地域の漁業に触れる事により、漁業のことを少しでも理解してもらい、将来の漁業後継者育成にも期待できると考える。

イベントの開催は青年部・女性部が中心となって地元で水揚げされた水産物の低価格で販売する「お魚祭り」を開催した。天候にも恵まれ、本年度も来場客数は 2 千人を超え大盛況であった。特に親子で行うお魚キーホルダー作成コーナー等は最初から最後まで人が絶

えないなどの状況であった。引き続き水産物の地産地消を推進し消費拡大が図れるよう継続して実施したい。